

まちの将来を市民と 行政がともに考え議論

3 / 25

登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会

3月25日(火)、市民会館で『登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会』が開かれ、小笠原市長が委員に委嘱状を交付しました。

同委員会は、住みよいまちを目指すため、必要な市の施策を示す『第3期基本計画』（平成28年度～平成37年度）を、市民にも主体的に考えてもらい、市職員による庁内検討委員会と協働で策定に取り組もうと設けられました。

今後、同委員会の6部会（『めくもり』、『防災・環境』、『産業躍動』、『都市調和』、『育み』、『まちづくり』）も開かれ、庁内検討委員会にも設置している各部会と協力して、幅広く議論を行い、平成27年度中の計画完成を目指します。



▲小笠原市長から委嘱状を受け取る委員（右）



▲市職員の説明に耳を傾ける委員

地元の海の幸を満喫

平成26年登別海鮮直市

4月6日(日)、JR登別駅横で『平成26年登別海鮮直市』（登別まちづくり促進期成会主催）が開かれました。

この日は、ナンバンエビやホッキ貝など登別漁港で水揚げされた魚介類をはじめ、初日限定で室蘭産のホタテや登別ブランド推奨品などが販売されました。そのほか、市内で捕獲したエゾシカの焼き肉が来場者に振る舞われ、人気を集めていました。

同イベントは、10月26日までの毎週日曜日10時から開催しています。

4 / 6



▲新鮮な海産物を買求める来場者



▲開通直後の道道を走行する自動車

移動時間の短縮や 利便性向上が実現 道道（若山町）開通

3 / 31

3月31日(月)、総合体育館前から道央自動車道登別室蘭インターチェンジ出入口までを結ぶ新しい道道が開通しました。

この道道は、富岸町方面と中央町方面を直接結ぶとともに、車道を片側1車線から2車線に拡幅することなどにより、通勤時間帯や冬季に目立っていた交通渋滞の解消を図ろうと、北海道が平成21年度から整備を行ってきたものです。

開通で、移動時間の短縮や市民の利便性の向上が図られました。



▲行政相談委員の垣内さん（左）と吉田さん（右）

ようこそ登別へ 新しい市民をお出迎え 住民異動届の出張受け付け

4/7・8

4月7日（月）・8日（火）、日本工学院北海道専門学校で、同校の新入生のうち学生寮への入寮生を対象に住民異動届の出張受け付けが行われました。

この取り組みは定住対策として平成23年から毎年行われており、今回は初日80人、2日目27人の計107人が利用し、届け出を済ませました。

会場を訪れた学生は少し緊張した面持ちながら、これからの登別での生活へ希望を膨らませていました。



▲住民異動届を提出する新入生

市民の皆さんの声を 行政に届けます

4/15

一日行政相談

4月15日（火）、登別郵便局で行政相談委員による「一日行政相談」が行われました。

この行政相談は、国や特殊法人、北海道市の業務に関する苦情や意見、要望を受け付け、中立の立場からその解決の促進、行政の制度・運営の改善を図るため、偶数月の15日に行われています。

市内では、垣内登紀子さん（☎011-7245）と吉田伸吾さん（☎011-7773）の2人が総務大臣から行政相談委員に委嘱されています。

浜のお母さんの 手ほどきで料理に挑戦

3/27

のぼりべつ浜のお母さん料理教室

3月27日（木）、婦人センターで『のぼりべつ浜のお母さん料理教室』（市主催）が開かれました。この催しは胆振太平洋海域漁業振興協議会との共催で、登別漁港で水揚げされた魚介類を使った調理を通して地域の水産資源を広く知ってもらうために開催されました。

17人の参加者は、いぶり中央漁業協同組合女性部登別支部の6人の講師と共に『マツカワのマリネ』、『ホッキカレー』、『エビのカナッペ』の料理に挑戦しました。

「小さな子どもがいるので、普段はあまり料理に時間を掛けられないです」という参加者も、ホッキの殻むきやマツカワガレイの5枚おろしに取り組み、慣れない作業に苦戦しつつも、「家でも刺身などを作ってみたいです」と笑顔で語ってくれました。

スマートフォンで動画を再生できます

1. GooglePlay・AppStoreから  junaio 無料アプリ『junaio』をダウンロード
2. 必ずこのQRコードをスキャン 
3. この下の写真にスマートフォンをかざす



▲ホッキの殻むきの様子